Ibaraki Association of Architects & Building Engineers

けんちく茨城

No. 87 February, 2015

［報告］
平成27年新春賀詞交歓会

［建築作品紹介］
水戸市立第二中学校

一般社団法人
茨城県建築士会

会報 けんちく茨城

一般社団法人 茨城県建築士会／2015年2月　第87号

目次

	年頭のごあいさつ　一般社団法人 茨城県建築士会会長 柴 和伸	1
［報告］	平成27年新春賀詞交歓会	2
［特集］	水戸市長 高橋 靖 氏 に聞く	6
［シリーズ］	先輩会員を訪ねて　林 幸男氏、菊池 均氏 インタビュー	9
［建築作品紹介］	水戸市立第二中学校	10
［トピックス］	いばらきデザインセレクション2014受賞作品紹介 「小田の家」（H邸古民家再生）――吉田建築計画事務所・吉田良一氏	12
	いばらきデザインセレクション2014受賞作品紹介 「わ」の家――宮本建築アトリエ・宮本久氏	
［まちづくり委員会報告］	ヘリテージマネージャー全国大会報告 歴史的建造物保存のために奮闘する全国の建築士たちの熱意に感動	13
［総務委員会報告］	「建設フェスタ2014」報告 苗木配布のほか、さまざまな形で会の活動をPR	14
［会員委員会報告］	日帰り施設見学会報告 国会議事堂の圧巻の内装を間近で体験。	15
［久慈支部報告］	ベテラン建築士の奥深い世界観に触れた日。	16
［土浦支部報告］	つくば市北条に残る伝統建築に、デザインの美しさと機能性を学ぶ。	17
［報告］	西山荘現場完成見学会 光圀公の晩年の暮らしに想いを馳せて。	18
［土浦支部報告］	歴史的街並みに調和するポケットパーク完成！	19
［青年委員会報告］	将来の一級建築士を応援！「製図課題施設見学会」開催	20
［女性委員会報告］	わくわくセミナー　「天然壁材について」「登記ついて」	21
	ラブアークセミナー　見学会＆体験「結城紬ミュージアムつむぎの館」 セミナー「これからの高齢者の住まい」	22

題字　橋本 昌 茨城県知事

表紙写真　水戸市立第二中学校

設計　㈱パル綜合設計
所在地　茨城県水戸市三の丸2-9-22
敷地面積　40,395.76㎡
建築面積　5,386.57㎡
延床面積　8,401.05㎡
構造　RC造2・3階建て
RC・鉄骨造平屋建て
木造平屋建て

会報 けんちく茨城

2015年2月　第87号

発行　平成27年2月5日（年3回発行）
次回発行　平成27年6月5日予定
発行部数　2,800部
発行所　一般社団法人 茨城県建築士会 会長 柴 和伸
〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F
TEL.029-305-0329　FAX.029-305-0330
Eメール kyy05413@nifty.com
編集　情報・広報委員会
デザイン　有限会社平井情報デザイン室
印刷所　株式会社あけぼの印刷社

年頭のごあいさつ

会の魅力がさらに増すよう 皆さんとともに考え、実行する年に

一般社団法人 茨城県建築士会
会長 柴 和伸

2015年の抱負を柴会長に語ってもらいました。

景気回復・デフレからの脱却

昨年末には消費税増税延期やアベノミクス政策に対する国民の信を問うための衆議院総選挙が行われ、結果的には自民党の圧勝となり安倍政権の継続となりました。昨年前半は一昨年から続いたアベノミクス効果からデフレにより低迷していた日本経済に明るい兆しが見え始めた感がありましたが、4月からの消費税増税以降は景気後退局面に入りマイナス成長となりました。今後は成長戦略の実行、景気回復、デフレからの脱却等が期待され、アベノミクスの真価が問われることとなります。

さらに、国内問題、国際問題等さまざまな懸念材料はありますが、県内においては2019年の茨城国体へ向けてのインフラ整備など公共事業の拡大、民間企業の設備投資など、我々建築業界に身を置く者としては明るい兆しがほしいところではあります。今後のさらなる景気の回復を願い個々の事務所、企業だけではなく皆が良くなるよう協力し、問題点を解決するよう努力していかなければならないと思っています。会員相互、個々の事務所の仕事をいかに生み出すか、皆で知恵を出し合って明るい年となるよう望みます。

事業の継続

会の活動としては、基本的には今まで進められてきた事業を継続していくことになります。

特に昨年9月より4回シリーズで実施した「工事管理者セミナー」は27年度も実施予定です。また昨年6月より講座を開始した「いばらき木造塾」は、この3月に26年度の講座が終了しますが、木造の技術、知識を深めるために、引き続き27年度も開催する予定です。また昨年告示され本年度施行される建築士法改正の講習会など士会本来の広域的な使命、情報の提供や研修会の開催等、会員の皆さんにとって役に立つ活動、事業の内容を整理し充実させ、高めてゆくことをこれからも継続していきたいと考えています。

会の事業遂行の根幹の部分は各委員会の活動と連動することが多く、事業内容、会のためによりよい効果のある事業の実施を各委員長を中心に引き続きお願いしたいと思います。

会員の減少、増強等について

ここ数年会員が減少し、財政的にも厳しい状況となり、会の運営が危惧される状態にあります。特に若い方の入会が少なく、会員歴の長い会員も高齢に達し退会されるケースが多く、中途退会者もあり、会員の減少が続いています。当会を魅力ある会にするためにはどうすればよいかを皆さんと一緒に考え、会員の減少を止め、増強を図っていきたいと強く願っています。

（聞き手＝情報・広報委員会 浅野 祐一郎、石黒 幸喜）

平成27年

新春賀詞交歓会

平成27年1月16日(金) 16:00～
水戸プラザホテル 2階「ボウルルーム」

［式次第］
開会のことば／会長あいさつ／来賓あいさつ／
来賓紹介／乾杯／賀詞交歓／大抽選会／中締め

年の初めの恒例行事となった平成27年の新春賀詞交歓会が、1月16日㈮水戸プラザホテルにおいて開催された。今回は、来賓、会員、賛助会員を合わせて過去最高となる337名の参加があった。

松山副会長による開会のことばの後、柴会長からあいさつがあり、昨年末におこなわれた衆議院総選挙において本会顧問である田所嘉徳氏が再選され、自民党の圧勝となり、また同時に行われた県議会議員選挙に

橋本 昌
茨城県知事

田所 嘉徳
衆議院議員／
本会顧問

白田 信夫
県議会議員／
本会顧問

伊沢 勝徳
県議会議員／
本会顧問

石川 多聞
㈶茨城県
林業協会理事長

柴 和伸
本会会長

今年も、
健康第一で！

いつも笑顔を
たいせつに

今年も元気に
いきましょう！

遊びも仕事も
楽しく真剣に

今年もチームワーク
で前進します！

おいても本会顧問の白田信夫氏、伊沢勝徳氏がトップ当選されたこと、また、我々地方に住み、地方で業務を行っている者にとってはまだまだ安倍政権によるアベノミクスという風が届かない状況でありながら、地元で生活し業務を遂行していくため、各行政機関、地元の関係者に協力いただきながら、今後も会員一丸となっていきたい、など新しい年に向けての抱負を述べた。

来賓あいさつとしては、橋本昌県知事、田所衆議院議員、白田県議会議員、伊沢県議会議員より祝辞をいただいた。続いて昨年行われた「いばらき地域適合型木造住宅提案コンペ」（県木連主催）の表彰式が行われ各賞の受賞者が表彰された。

石川多聞県林業協会理事長の乾杯のご発声により、会場中に和やかで楽しげな交流が広がり、また、大抽選会では、役員や賛助会員より多くの景品が提供され、最後には液晶テレビが登場するなどして、大いに盛り上がった。祝宴は盛況のうちに進み、武村副会長の中締めにより終了した。

未年は物事が成熟する年といわれます。安倍政権も3年目に入り成果が問われる年、安定した経済成長、景気回復を願い、会員の皆さまに幸多き年であることをお祈り申し上げます。　（報告＝情報・広報委員会）

いばらき地域適合型木造住宅提案コンペの表彰風景

大きな飛躍を遂げる
1年にしましょう！

乾杯！

勝ち抜き
ましたー！

ウメ〜一年に
なりそう?!

若いパワーで
がんばります

明るく楽しく
いきましょう

新年早々
ツキが
きました！

新しい活動に
挑戦したいですね

よい年に
いたしましょう

平成27年 新春賀詞交歓会参加者名簿

＊当日出席された方のお名前を掲載しています

ご来賓

茨城県知事	橋本　昌	茨城県木材協同組合連合会　会長	打越　芳男
衆議院議員　建築士会顧問	田所　嘉徳	(一社)茨城県電設業協会　理事	園部　昌之
水戸市　副市長	橋本　耐	(一社)茨城県空調衛生工事業協会　会長	小川　三郎
茨城県議会議員　建築士会顧問	白田　信夫	(公社)茨城県水質保全協会　副理事長	成田　浩明
茨城県議会議員　建築士会顧問	伊沢　勝徳	(公社)茨城県宅地建物取引業協会　副会長	車　孝則
茨城県土木部　都市局長	澤田　勝	茨城県塗装工業組合　理事長	鈴木　博巳
茨城県土木部技監兼都市局建築指導課長	江原　秀明	茨城県鉄筋業協同組合　理事長	大平　時彦
茨城県土木部都市局住宅課長	中村　浩	茨城県鐵構工業協同組合　副理事長	萩原　文雄
茨城県土木部技監兼営繕課長	山田　茂	茨城県板金工業組合　理事長	花田　昇
水戸市都市計画部建築指導課 課長補佐	青木　昌弘	(一社)茨城県貯水槽維持管理協会　副会長	伊藤　洋男
日立市都市建設部建築指導課長	沼田　敬元	茨城県管工事業協同組合連合会　専務理事	石田　賢司
土浦市都市整備部建築指導課　副参事	真家　達成	(一社)茨城県消防設備協会　副会長	入江　元
(一財)茨城県建築センター　理事長	野澤　謙次	茨城県行政書士会　会長	國井　豊
(一社)茨城県建築士事務所協会　会長	横須賀 満夫	茨城新聞社　常務取締役営業統括	桜井 由紀夫
日本建築学会関東支部　茨城支所長	益子　一彦	日本工業経済新聞社　水戸支局長	吉濱　俊樹
(一社)茨城県設備設計事務所協会　会長	菊地　繁	日本建設新聞社　水戸総局長	井上　哲郎
(一社)茨城県建設業協会　専務理事	田山　寛治	(一社)茨城県建築士会　相談役	滑川　浩一
(公社)茨城県林業協会　理事長	石川　多聞	(一社)茨城県建築士会　相談役	村田　省吾

（敬称略、順不同）

正会員

北茨城支部	茅根　信男	ひたちなか支部	山田　博則	県央支部	鎌田　浩史	県央支部	中山　眞矢
久慈支部	市川 三和子	鹿島支部	髙橋　文男	〃	工藤　恵	〃	沼田　弘次
〃	植田　笑子	〃	中薗　薫	〃	久野　正行	〃	根本　勝義
〃	梶　ひろみ			〃	倉田　章吾	〃	根本 洋一朗
〃	木村　千明	県央支部	浅野 祐一郎	〃	小圷　真司	〃	塙　秀之
〃	西野　泉	〃	安達　芳男	〃	小室　晶	〃	塙　万治
〃	藤井　耕市	〃	荒川　芳和	〃	小室　克己	〃	早川　敏史
		〃	飯島　隆	〃	斎藤　章	〃	平沼　清美
高萩支部	佐藤　新一	〃	池崎　栄二	〃	酒寄　光一	〃	舟幡　健
〃	棚谷　哲夫	〃	井坂　光宏	〃	櫻井　充	〃	丸山　好史
〃	豆澤　時雄	〃	石川　啓司	〃	佐藤　哲夫	〃	宮本　久
		〃	石黒　洋子	〃	椎名　康一	〃	盛田　周作
日立支部	石黒　幸喜	〃	泉　安幸	〃	篠根　玲子	〃	守田　義広
〃	菊池　積	〃	市毛　純一	〃	柴　和伸	〃	柳下　文江
〃	冨田　義光	〃	内山　一志	〃	白土　裕子	〃	山田　一博
〃	生田目　昇	〃	宇留鷲 博一	〃	杉本　孝一	〃	横須賀　孝
〃	松崎　行夫	〃	遠藤　洋三	〃	鈴木　弘	〃	吉田　雄一
〃	松山　恒男	〃	大鐘　孝弘	〃	関根　貴雄	〃	吉田　進
〃	三澤　俊介	〃	大槻　薫	〃	瀬谷　和人	〃	和田　淳一
		〃	大山　早嗣	〃	高槻　一雄	〃	渡辺　章夫
ひたちなか支部	大内　賢一	〃	岡部　安寿	〃	田中　健一		
〃	上久保 博隆	〃	小川　憲一	〃	田中　正巳	県庁支部	小笠原 正裕
〃	川又　晴彦	〃	小川　雅良	〃	飛田　直身	〃	小倉　忠
〃	清水　洋一	〃	加藤　宜之	〃	富田　正美	〃	内藤　初男
〃	立花　秀之	〃	金澤　重雄	〃	冨山　則行		
				〃	中﨑　妙子	行方支部	石井　誠之

行方支部	内野　博幸
〃	江口　誠一
〃	田中　修治
〃	中村　正明
〃	藤崎　政行
〃	本澤　幸一
鉾田支部	鎌田 富士夫
〃	桐原　栄
〃	葛西　栄一
〃	久米　恒雄
古河さしま支部	小林　澄夫
〃	長塚　威
〃	根本　和也
〃	長谷川 正幸
桜川支部	飯島　一則
〃	飯島　洋省
〃	石島　隆
〃	鈴木　孝和
〃	武村　実
〃	藤田　昭一
〃	古橋　明
〃	渡辺　清一
下妻支部	飯村　純男
〃	江面　松男
下妻支部	軽部　守彦
〃	谷田部 一郎
常総支部	飯塚　正一
〃	岡田　一夫
〃	杉田　次夫
〃	高野　武
〃	福田　明良
〃	松崎 マサ子
筑西支部	小薬　拓巳
〃	小島　時夫
〃	柴　博美
〃	中山　和朗
〃	平入　彰
坂東支部	菊池　一夫
〃	鈴木 光興志
〃	滝本　武
〃	森　均
八千代支部	馬場　明義
結城支部	小貫　廣利
〃	北條　豊之
石岡支部	久保田 吉文
〃	島田　哲
石岡支部	武居　公江
〃	和田　邦裕
稲敷支部	児玉　欽司
〃	森田　幸則
北相馬支部	石田　博英
〃	稲葉　光夫
〃	佐々木 一志
〃	篠崎　達
〃	土井　金哉
〃	増山　博
筑波支部	相澤　晴夫
〃	青木　孝二
〃	市村　正義
〃	潮田　浩
〃	潮田　充
〃	大塚　益弘
〃	沖山　哲夫
〃	河野　正博
〃	小島　正実
〃	斉藤　保弘
〃	中泉　文夫
〃	長瀬　行弘
〃	野口　克典
〃	堀江　功
〃	森田　三朗
土浦支部	青山　立美
〃	赤木 香菜子
〃	赤木　裕子
〃	石坂　健一
〃	枝川　良昌
〃	大野　雅明
〃	小神野　栄
〃	久保田 綾子
〃	小林　明江
〃	櫻井　成郎
〃	鈴木　啓之
〃	須藤　隆
〃	関根　美宏
〃	塚本　美明
〃	豊崎　晋也
〃	中村 眞紀子
〃	増山　栄
〃	眞鍋　道子
〃	箕輪　勇介
〃	村松　勤也
龍ヶ崎支部	家富　秀一
〃	岩崎　清
〃	佐藤　信一
〃	田々辺 寿雄
〃	田村　喜郎
〃	成田　孝成

賛助会員

㈱アール・ネット	二本松 恭行
アイ・アール㈱	林　宏行
アイジー工業㈱	刀田　祐二
〃	黒沼　優一
㈲アカオギ塗工	赤荻　弘
暁飯島工業㈱	平塚　亨
㈱朝日工務店建築設計事務所	長谷川 賢一
㈱アルク	神山　健
㈱安心確認検査機構	大和　智
〃	奥津　広
〃	児玉　厚
㈱伊勢甚本社水戸プラザホテル	綿引　章博
茨城県ガス協会	池田　達郎
(一財)茨城県建築センター	大畠　勝
〃	黒澤　利勝
〃	部　康弘
茨城県林業種苗協同組合	大越　靖史
茨城寺岡オートドア㈱	上田　庫由
〃	松田　公建
植田防水工業㈱	栗原　信
㈱エスアールエスディービー社	小澤　康二
〃	須藤　崇人
〃	須藤　裕市
㈱角藤 水戸支店	小林　隆
〃	手塚　文博
〃	村田　弘就
㈲カネミツ商会	小田　真吾
菊地設備設計事務所	横山　努
㈱菊正塗装店	鈴木　章
草苅木工㈱	草苅　道雄
㈱建築資料研究社日建学院	海老澤 和久
〃	柿本　和彦
㈱建友	根本　学
光商建材㈱	木村　豊
コスモ綜合建設㈱	池田　大輔
〃	菅原　秋彦
小西㈱	石塚　紀昭
三英物産㈱	石塚　義章
㈲三企地盤	小沼　功
三和シャッター工業㈱	安田　則之
㈱新栄電気通信工業	庄司　泰世
㈱新日東	鈴木　紀英
鈴木鉄工建設㈱	鈴木　匡明
㈱総合資格	長沢　正洋
〃	藤原　正彦
大一木材㈱	亀山　和紀
〃	酒本　順一
髙橋商事㈱	髙橋　勲
秩父ケミカル㈱	室伏　秀行
㈱千代田興業	君山　毅
〃	照山　光男
ナブコシステム㈱	黒滝　浩之
㈱奈良屋	横山　昌弘
㈱西尾家具工芸社	内山　貴博
日本板硝子関東販売㈱	中尾　基伸
〃	中野　祐樹
〃	羽成　正光
㈱根子左	豊田　一雄
㈱日立ビルシステム	上野　拓範
〃	山口　史子
㈲平井情報デザイン室	平井　夏樹
㈱フジクリーン茨城	大竹　伸一
〃	大竹　昌士
〃	小澤　啓一
フジクリーン工業㈱	加藤　康宣
〃	木村　秀昭
㈱フジタビジネスマシンズ	宮部　正栄
㈲ふじ美装	木田　雄志
㈱北雄産業 東京営業所	髙橋　広志
〃	三沢　孝治
北海道パーケット工業㈱	髙根　満男
㈱ホテルテラスザガーデン水戸	海野　勝人
前田製管㈱茨城支店	安藤　直哉
三谷セキサン㈱	小山　秀人
㈲水戸技術設計コンサルタント	山田　真一
ミナト防災通信工業㈱	石井　浩二
〃	仙北谷 正明
〃	若林　純也
㈱湯浅	湯浅　宗浩
ランドスタイル㈱	松村　秀治
㈱ＬＩＸＩＬ	伊奈　浩一
〃	兵　歩
リンナイ㈱	長田　亮治
ＹＫＫＡＰ㈱	伊藤 万喜男
〃	遠山　勉
和知商事㈱	石川　弘幸
〃	和知　紀良

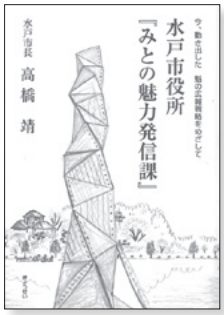
［特集］

水戸市長

高橋 靖 氏に聞く

2011年（平成23年）5月から水戸市長を務める高橋靖氏。本会顧問でもある高橋氏が、これまで推し進めてきた水戸市のイメージアップ戦略を、さまざまな角度からまとめた著書『みとの魅力発信課』を昨年12月に上梓し、その「まちづくり」の手法が注目を集めています。今後のまちづくり計画について、あらためてお話しいただきました。

（聞き手＝情報・広報委員会 浅野 祐一郎、山田 一博）



2014年12月に出版された高橋市長の著書。書名には、自らが新設した市役所の部署名「みとの魅力発信課」をそのまま冠した。

徳川斉昭公が貫いた「一張一弛（いっちょういっし）」の理念を、現代の水戸のまちづくりに生かしていきたい

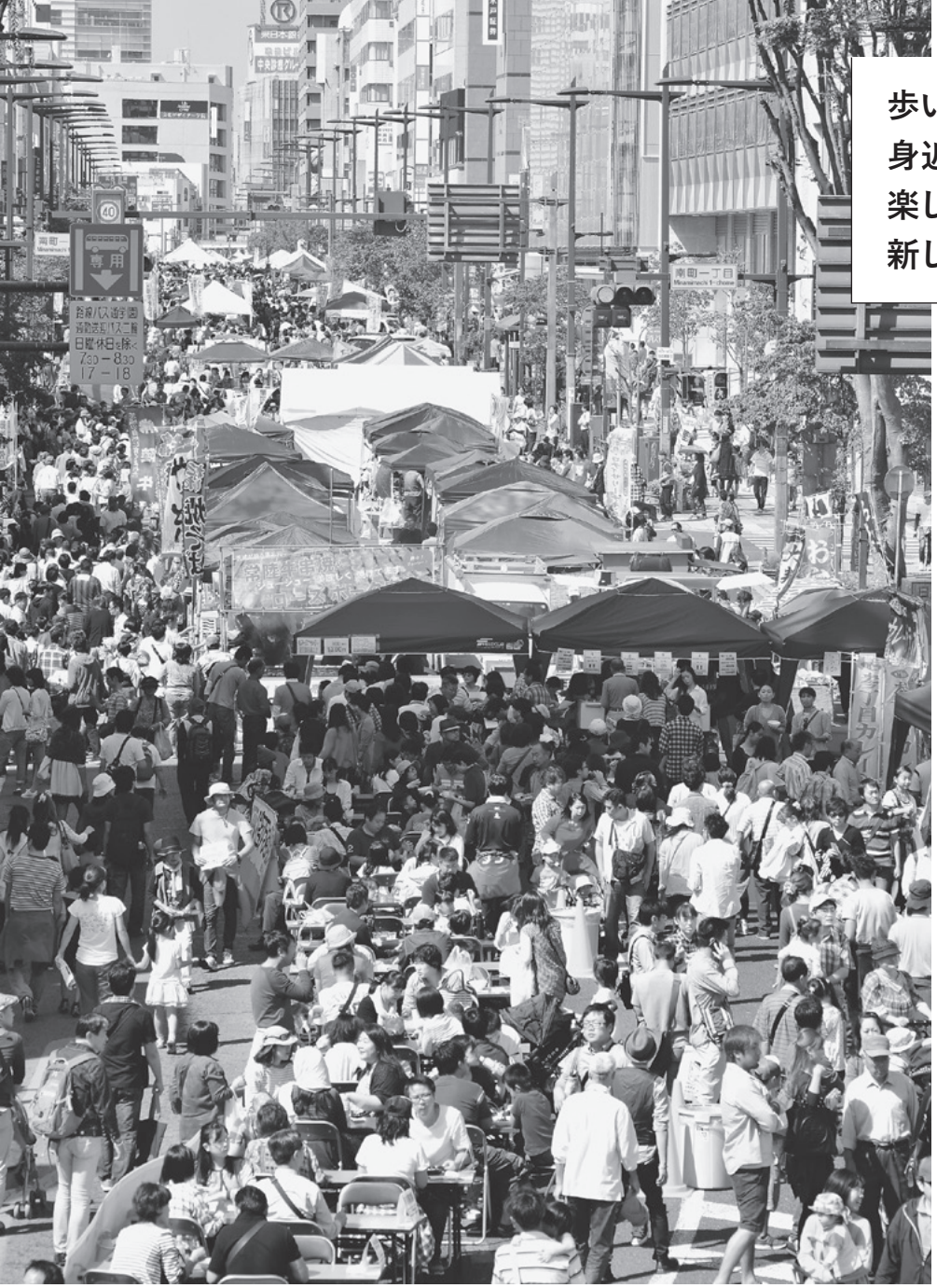
東日本大震災後、中心市街地に元気を取り戻すための取り組みとして、高橋市長の発案による「水戸まちなかフェスティバル」が2011年からこれまでに3回開催され、たいへんな盛況を博しています。

継続的な集客を実現することで、水戸の復興した姿や水戸のまちが持つ魅力を県内外に広く発信し、さらに、市民の心を癒しながらまち全体を元気づけ、中心市街地の活性化に結びつく効果をもたらしています。

「歩いて楽しめる」まちづくりが実践された、まさに市長が掲げる「みと魁（さきがけ）プラン」のエッセンスが凝縮されたイベントが、この「水戸まちなかフェスティバル」といえます。

昨年12月には、「みとの魅力発信課」という市長のまちづくりを推進するために設置された課の名称をそのまま冠した著書が出版されました。どのように「みと」のことを考え、どのように広報、発信させるべきなのか。それぞれの課題に真正面から取り組むその熱意と情熱が

たかはし・やすし ｜ 茨城県立緑岡高校卒、日本大学法学部新聞学科卒。明治大学大学院政治経済学研究科修士課程修了／衆議院議員鳩山邦夫氏秘書、水戸市議会議員3期、茨城県議会議員2期を務め、水戸市長に。2010年より当会顧問に就任。



昨年行われた「第３回水戸まちなかフェスティバル」の様子。歩行者天国となったメインストリート約1.5キロに、さまざまな店舗や団体が出店。それぞれに工夫を凝らしたイベントやワークショップを展開して７万４千人が集まる盛況となった。

歩いて楽しめるまち、
身近に気軽に
楽しみや喜びを感じられる
新しい水戸にしたい

読み取れる本です。

元気溢れる県都水戸のリーダーとして今後もますますの活躍が期待される高橋市長に、新市庁舎のプランも含め今後の水戸のまちづくりについてお話しいただきました。

徳川斉昭公が貫いた理念を現代の水戸に

「一張一弛」という言葉があります。礼記（らいき）にある孔子の言葉で、水戸藩第９代藩主の徳川斉昭公が「弓」に例えて、人材育成や自らの生き方における精神として用いた言葉です。弦を強く張ったり、ゆるめたりすること。すなわち緊張とリラックスの双方が大切であると解釈できるようです。その考えでつくられたのが、学問の場であった「弘道館」と、その対として「偕楽園」という場。その理念を基に環境が整えられ、現在の水戸のまちに続いています。

私は、この先人の教えに感銘を受け、水戸らしさは何かを常に考えながら、この理念を継承して現代のまちづくりや人材育成に生かしていきたいと考えています。

「みと魁（さきがけ）プラン」市民が主役となるまちづくり

水戸市は、2014年から2023年までの10年間のまちづくりの基本方針となる「水戸市第６次総合計画－みと魁プラン－」を策定しています。本プランは、水戸市の目指す将来都市像「笑顔あふれる安心快適空間 未来に躍動する 魁のまち・水戸」を掲げ、その実現に向け、施策の大綱を定めるとともに、それに基づく様々な施策を進める指針となるものを示しています。そして、市民ひとりひとりが幸せを感じられるまちをつくっていきたいと考えております。

「基本構想」水戸をこんなまちにしたい

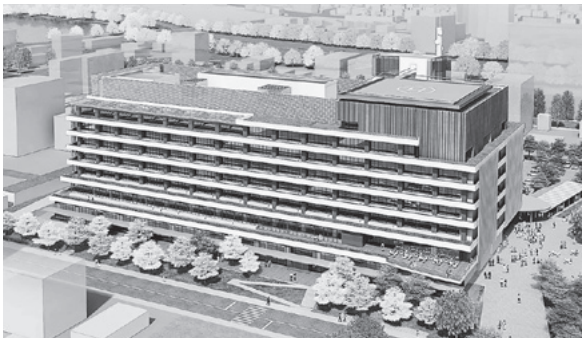
基本構想は、都市づくり基本理念と水戸市の目指す将来都市像を掲げるとともに、目標人口、目標交流人口の設定や経済の見通し、都市空間整備構想を定めるほか、将来都市像の実現のために必要な施策の大綱を定めています。

都市づくりの基本理念

- 笑顔にあふれ快適に暮らせる安心都市づくり
- 未来に躍動する活力ある先進都市づくり
- 水戸ならではの歴史、自然を生かした魅力ある交流都市づくり

［特集］
水戸市長
高橋 靖氏
に聞く

新しい市庁舎は、何よりも堅牢に。そして、だれにとっても快適な場となるように



2018年8月に供用開始の新市庁舎のイメージ図。上が庁舎北側、右が庁舎南側からの図。災害時の防災拠点としての機能を第一に備えながら、平時には市民の憩いの場となるよう、周辺環境が整えられる。

都市空間整備の方向

「魅力・活力集積型スマート・エコシティ」を目標に掲げ、時代の変化に対応できるコンパクトな都市構造を展望し、以下の4つの視点から都市空間の整備を総合的に進めます。

- 水と緑のうるおい空間づくり
- 都市核・拠点の機能強化・充実と快適な生活環境づくり
- 災害に強い都市基盤づくり
- 地域特性を生かした魅力あふれる交流ネットワークづくり

持続可能な発展のための、4つの重点プロジェクト

時代の潮流、課題や市民の意向を踏まえながら、水戸ならではの特徴を生かし、都市力を高めていくために、また、若者が将来に夢と希望を持てるまち、子どもから高齢者までのだれもが生き生きと安心して暮らせるまちを実現させるために、次の4つの重点プロジェクトを定め、取り組んでいるところです。

①未来への投資プロジェクト——将来の水戸を担う子どもたちを育む(学問の府としての水戸)。

②災害に強いまちづくりプロジェクト——安心・安全な生活を実感できる。

③観光集客力アッププロジェクト——観光のまち、水戸をつくる。自然、歴史、文化の魅力を生かす。

④まちなかにぎわい・活力創造プロジェクト——まちなかが賑わう都市づくり。水戸らしさにこだわりながら経済の活性化を図る。

「住んで良かった」と思えるまちづくりを

これからの時代に即したコンパクトシティ構想として、私は、水戸のまちをぜひ、歩いて楽しめるまちにしたいと考えています。

身近に気軽に様々な楽しみや喜びを感じられる新しい都市のあり方として、遠くへわざわざ出かけなくとも、本物の味覚や音楽、芸術、スポーツ観戦が体験できたり、最先端の技術に出会えたり、まちと文化を同時につくっていく方法を思案し、集客と安らぎ、感動できる環境を形成しながら都市間競争に負けない「みと」のまちをつくりたいと考えています。

新庁舎は、2018年8月に供用開始。堅牢かつ快適な場に

災害に強く堅牢な庁舎であることを第一とし、災害が発生した時の防災拠点として機能できるよう整備します。そして、市民がいつ訪れても快適な空間と環境を提供できる施設を構築すべきであると考えています。だれもが平等にサービスを受けられることはもちろん、市民の喜びの場になったり、いつでも気兼ねなく憩える場所となるような市役所をつくっていきたいと思います。

シリーズ第25回

先輩会員を訪ねて

士会会員として長きにわたり活躍されてきた先輩方を訪問し、
お話を伺うコーナー。第25回となる今回は、
土浦支部の林 幸男氏と、
久慈支部の菊池 均氏を訪問し話を伺いました。

聞き手＝情報・広報委員会

「努力なくして成功なし。これからも努力し続けます」

林 幸男 氏（土浦支部）

昭和17年生まれ／昭和44年入会／会員歴45年

生れは東京都江戸川区小岩。都立の工業高校建築科卒業後、東海大学へ進学。大学卒業後、大手住宅メーカー東京本社に就職。その後東京本社から土浦支店に転勤し、退職後の昭和44年に土浦で事務所を開設。以来、土浦が本拠地に。大学時代に逓信病院等の設計で知られる山田守研究室で病院建築を学んだ経験を活かし、病院、診療所、福祉施設を多く手掛けた。建築士会では、土浦支部の役員としての活躍でも知られる先輩会員。

――建築士を志した理由は？

「父親が大工だった影響からか図面を描くのが好きで、大学1年で2級建築士を取得しました」

――会の活動として印象に残ることは？

「いちばんの思い出は、土浦支部役員としての功績が評価され、平成24年度の総会において柴会長より表彰いただいたことです」

――座右の銘を教えてください。

「好きな言葉は“努力”です。努力なくして成功なしと思っています。これからも努力し続けます」

「木材を知り、技術を知る大切さを次の世代に伝えたい」

菊池 均 氏（久慈支部）

昭和24年生まれ／昭和51年入会／会員歴38年

生れも育ちも大子町。ものづくりが好きだったことから大工を目指し、大子一高卒業後、県立水戸職業訓練所で建築を学び、昭和44年4月に江橋建築事務所に入所。昭和52年1月に菊池ヒトシ建築事務所を開設し、平成25年3月に「樹輪」に改称。現在は大子の職人集団「樹輪」の代表として、おもに住宅建築を手掛けるほか、全国的なNPO法人である「伝統木構造の会」や「木の文化塾」、地元大子のグループ「親父の出番」などの中心メンバーとしても活躍し、東日本大震災後は縁台を約100台製作し、東北方面へ寄贈。じつに多くの人から慕われる親方である。

――若い後継者の育成にも取り組まれていますね。

「昨年6月に始まった『いばらき木造塾』でも、2回ほど、大子の作業場において木工実習を担当しました。現在の在来工法は金物に頼り過ぎていて、木造建築本来の特徴である木組みの重要性を失ってしまっている。木材を知り、技術を知る、本当の意味での木造の良さ、伝統的木造の良さを、次世代の若い人たちにいかに伝えていくかが大切だと思っています」

――健康維持の秘訣を教えてください。

「運動すること。以前はトライアスロンを続けていました。今は水泳や自転車で健康を維持しています」

［建築作品紹介］

水戸市立第二中学校

**水戸城跡に建つ「歴史性」と
夢と希望を育む場としての「未来性」、
その双方をとりいれ、
水戸市民の誇りと夢が膨らむ学び舎に。**

南側から見た校舎全景

計画地の背景

本校は、水戸城跡の二の丸に位置しており、かつて徳川光圀が大日本史の編纂に着手した彰考館跡地にあります。周辺には、国の重要文化財である「旧弘道館」もあり、県指定史跡の「水戸城跡」としての昔の面影を留めています。また、北方には那珂の清流を眼下に見下ろし、遠く阿武隈の山並みを望む、素晴しい環境を有しています。

歴史性の反映

徳川斉昭の偕楽園記に記されている「一張一弛」（張りて弛めず、文武能くせざるなり。弛めて張らず、文武なさざるなり、一張一弛は文武の道なり）にならい、学問の間の休息も教育のひとつと考え、眺望の良いデッキスペースを各階に設け学校生活の中に自然と清々しい緑や広大な風景が織り込まれるような環境づくりを行うよう心がけました。また彰考館の館名の由来となった「彰往考来」の“過去を彰かにして未来を考える”は、物事を学び、考え、成長する場である学校にとって意義深い言葉であると考え、校舎は伝統的な雰囲気と自由で開放的な雰囲気とでしつらえ、過去と未来を表現する計画としました。

学校の象徴性

城跡通りに面して伝統工法（薬医門）の正門、白壁を設置し、隣には観光客も地域の人も利用出来る展示休憩施設を設け、水戸城跡のパネルや、本校の建設工事に伴う文化財発掘調査での出土品を展示。また弓道部の練習を見学可能とし、視覚とともに聴覚でも感じることができるようしつらえました。管理・普通教室棟、屋内運動場棟の外観は切妻屋根で構成し、特別教室棟はハイサイドライトを取り入れたボールト屋根で架構した開放的な空間を取り入れ、過去と未来を表現。生徒達に知識を提供したり疑問を喚起するようにしつらえ、単なる学校建築にとどまらず、貴重な歴史文化遺産との融合、中心市街地活性化等“まちづくり”への貢献も視野に入れて質の高い、水戸市民が愛着と誇りを持てる個性ある学校を目指しました。

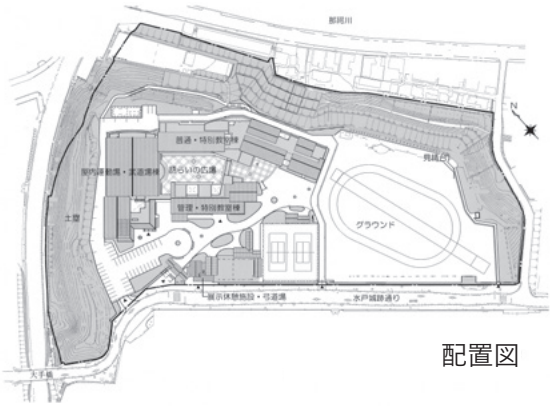
構造、機能的には将来の改造等に充分耐えうる、エコボイド

水戸市立第二中学校

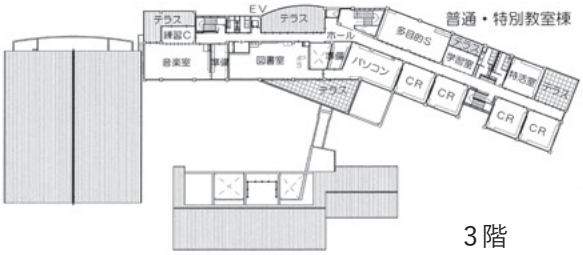
所在地　水戸市三の丸2-9-22
設計　㈱パル綜合設計

敷地面積　40,395.76㎡
建築面積　5,386.57㎡
延床面積　8,401.05㎡

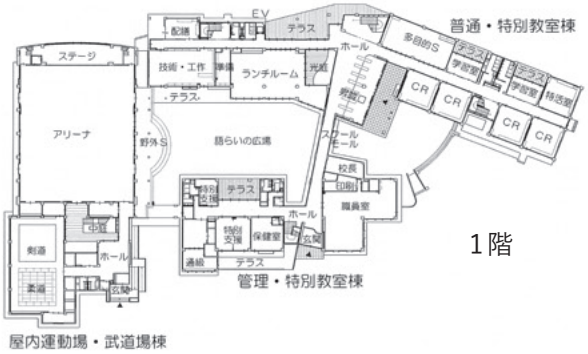
構造　RC造2・3階建て
RC・鉄骨造平屋建て
木造平屋建て



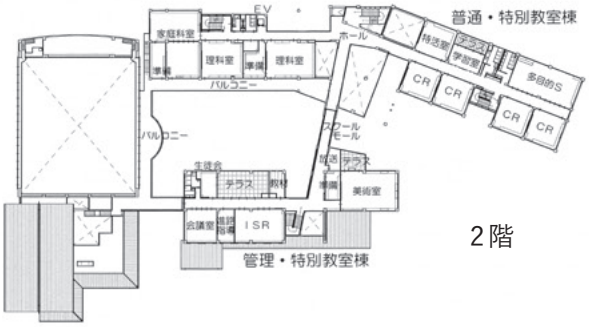
配置図



3階



1階

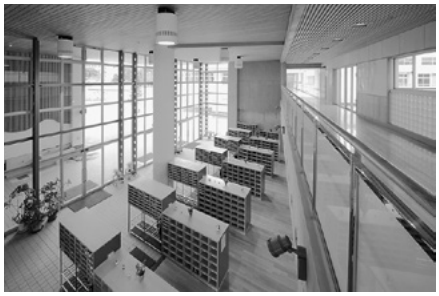


2階

を用いた無梁板や張弦梁による屋根スラブ等、シンプルなRCフレームで構成し、屋内運動場・武道場棟と教室棟で回遊性を保持できるよう配置しました。

水戸が誇る歴史地区として、どうあるべきかにも踏込みながら「生徒一人一人が夢と希望を持ち生きる力を育む学び舎、年齢、地域を越えた水戸市民の誇りと夢が膨らむ学び舎」を創ることに努めました。

正門


昇降口

音楽室

3階デッキスペース

「小田の家」（H邸古民家再生）――吉田建築計画事務所・吉田良一氏

つくば市小田の、周囲に土蔵や古い民家の残る歴史ある集落内に建つ昭和5年築の母屋と、震災で被災した明治11年築の土蔵を再生しました。母屋は約20年間使用されておらず老朽化していましたが、構造材は良質でしっかりしており、当時の職人の緻密な仕事による建物のうえ、施主家族が毎日戸の開け閉めを行っていたお陰で、震災による影響はわずかでした。

施主からの要望は、民家の特徴を残しつつ、機能的で快適な暮らし、インフラの充実、耐震補強、高齢な家族のためのバリアフリー、夫妻が欧州在住時に入手したアンティーク家具とのコーディネイトなどでした。

プランは南側の和室3間は復元し、北側部分は採光・通風を得るために間取りを大きく変化させ、分散していた水廻りを集約しコンパクトな動線としました。

1階に奥様の書斎、お母様の趣味の部屋、2階は隠れ家的雰囲気のご主人のスペース等、家族それぞれのプライベートな空間づくりも設計の大切なテーマとしました。外観は創建当時の黒い板壁や漆喰壁を残し、

吉田建築計画事務所の受賞作「小田の家」（いばらきデザインセレクション2014知事選定）

モダンデザインも混ぜながら、歴史ある町並みの景観を保っていくことを重視しました。

施工を担当した棟梁はじめ、瓦、建具、左官、家具等の職人の高い伝統技術と気概に支えられての工事でした。伝統木造技術の素晴らしさを再認識したことと併せ、後継者育成が急務になりつつあることを実感した現場でした。（吉田 良一）

「わ」の家――宮本建築アトリエ・宮本久氏

緑の多い落ち着きのある住宅地の中にある敷地は、南側の道路より少し高くなっています。その高低差に沿って、木立の庭が緩やかに家まで続いていきます。その木立の庭を眺めながら、家族や友人たちが訪れては、くつろいだ時間を過ごすゲストハウスのような家を考えました。

建て主が大事に考えていた「人が集う家」を考えていくなかで、内部はもちろんのこと、外部空間についても、どのように訪れる人たちを迎えるかということを大切にしました。

宮本建築アトリエの受賞作「わ」の家（いばらきデザインセレクション2014選定）

南側を自然の季節感を感じられる木立のある庭とし、道路との1mの高低差を利用した緩やかな斜面とすることで、木立によるプライバシーと、塀の無い見通しの良さによる防犯性を確保しながら、訪れる人を迎える空間を考えました。

その庭を囲むようにL型に住宅を配置し、道路側の車庫からは、庭を眺めながら住宅へとアプローチできる構成としました。

内部空間は、1階を人を招くパブリックな空間として、庭を眺めるリビング・ダイニング、ゲストルームとしての客間や和室、脱衣洗面、浴室を配し、2階は建て主のプライベートな空間として、書斎、主寝室を配し、リビング・ダイニングの吹抜けを介して、それぞれが繋がりを感じられるよう計画しました。

住宅でありながらも、木立の庭を介して緩やかに街に開いていくことで、人と住宅、さらには住宅と街とが、より繋がるよう考えました。（宮本 久）

まちづくり委員会　杉田 次夫

ヘリテージマネージャー全国大会報告

歴史的建造物保存のために奮闘する全国の建築士たちの熱意に感動

武村副会長（桜川支部）による発表

ヘリテージマネージャー全国大会開催

今回で2回目となるヘリテージマネージャー全国大会が、福島県郡山市内のビックパレット福島のプレゼンテーションルームで開催された。多くの参加者が集まり、活気に満ちあふれた大会となった。本会からも、まちづくり委員会の3名のほか多くの会員が参加した。

2014年10月現在、ヘリテージマネージャー養成講習会は、全国の建築士会のうち33の県および3団体において実施されている。東日本大震災発生から3年余りが経過するが、未だ修復がなされていない貴重な歴史的建造物を、地域に残る財産として守ろうと奮闘されている参加者の熱意と真剣さに敬愛の念を抱くとともに心から感動した。その想いを形にして行くことが、建築士としての使命であり役割なのだと実感した。

事例報告について

福島の歴史的建造物・東日本大震災その後、東日本大震災の被害状況と今後の課題、災害時の歴史的建造物の対応について、事例報告があった。また、本会副会長の武村実氏による「伝建地区・真壁の被災歴史的建造物の修復」についての事例報告も行われた。重伝建地区として指定されたのは震災の直前であり、そのために登録文化財が守られたこと、現在伝建地区内にある百軒を超える登録文化財の修復について、細かな施工方法が報告された。

さらに、兵庫：ひょうごヘリテージ機構H^2O代表世話人の沢田氏の報告では、登録文化財として指定された建物と無指定の落差がとても大きく、復旧されずに空地となってしまう事例が多いとのこと。しかし、文化財の修復については形（材料）が残っていれば当初材の70％を使用しての復旧が可能であり、多くの歴史的建造物の修理費は新築よりも安いといった事例もあった。それは今後の歴史的建造物の修復に携わる関係者に大きな希望となる事例であった。

今後の展望

日本建築士会連合会では、建築基準法適用除外（法3条第1項3号）の運用について、国交省に案内活動を行っており、歴史的建造物の修復を実施する上で期待がもたれている（現在、京都市・横浜市・神戸市等で施工しつつある）。その実現のため、まちづくり委員会では今後、「保存活用計画の作成方法」についてのステップアップ講習を開催し、委員会内にヘリテージマネージャーの技術指導が可能な体制を整えて置くことが必要不可欠であると考える。

総務・企画委員会　久野 正行

「建設フェスタ2014」報告

苗木配布のほか、さまざまな形で会の活動をPR

笠松運動公園にて

昨年11月9日㈰、毎年1万人以上の来場者でにぎわう「建設フェスタ2014」が開催され、われわれ茨城県建築士会も例年通り参加しました。

このイベントは、建築・土木・電設を中心とした各関連団体が一同に会し、それぞれの活動を広く一般市民に理解してもらうとともに、より身近な存在であることをアピールする場として年1回開催されているものです。

笠松運動公園の屋内プール前広場を会場に開催された今回のフェスタは、雨が断続的に降り続く悪天候にもかかわらず、多くの家族連れで大盛況となりました。

毎年さまざまな団体が参加する「建設フェスタ」の中で、われわれ茨城県建築士会は、総務・企画委員会と賛助会、事務局とが中心となり、子供向けのアトラクションとして、輪投げゲームや綿菓子の無料配布、漆喰を使った絵馬づくりなどを行っています。

また、大気や水質汚濁防止のPRとして継続して行っている地球温暖化抑制の活動として、今回は200本の「くちなし」の苗木を無料配布しました。例年通り多くの来場者が長蛇の列を作るほどの盛況を博しました。

今回は会場内で行われているクイズラリーにも初めて協力し、多くの子供たちが真剣に建築士に関する問題にチャレンジしていました。同時に、無料住宅相談会を実施し、気軽に相談できる窓口を開設しました。大会本部が毎年行っているペットボトルのキャップによる発展途上国への医療支援にも、本会及び建築士事務所協会会員から2万個以上が集まり、協力することができました。

近年は、友好団体である茨城県建築士事務所協会や茨城県建築センターとともに参加しており、建築士の業務と活動や建築行政への協力を広くPRしています。その認知度を高めるべく今後も積極的に参加し、多くの市民との交流を深めたいと考えています。

今年も苗木配布に長蛇の列ができた

県央支部　圷 浩一

日帰り施設見学会報告

国会議事堂の圧巻の内装を間近で体験。

国会議事堂前にて

昨年の11月3日㈪、毎年恒例の施設見学会が、㈱日立ビルシステム様、YKKAP㈱様の協賛により実施されました。

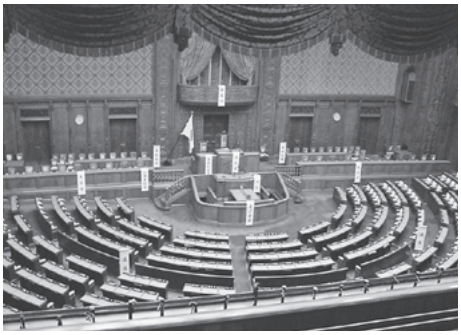
今回は国会議事堂→銀座で昼食→その後自由散策というコースです。水戸からバス2台で出発し、途中土浦から乗車された方を含め総勢90名の参加がありました。めずらしく首都高速の渋滞がなく予定より早く到着したので、予定にはなかった「憲政記念館」も見学することができました。幕末には井伊直弼の上屋敷があったそうですが、今は国会の組織や運営などの資料や映像を展示する場所になっています。

その後、衆議院議員であり本会顧問の田所嘉徳先生のご案内で、国会議事堂を見学しました。大正9年に着工し17年の工事期間を経て昭和11年に竣工した議事堂は、郵便ポスト、ドアの鍵、ステンドグラスを除き、すべて純国産の材料を使用しているそうです。本会議場、御休所、中央広間などの豪華な内装は圧巻でした。貴重な時間をさいてくださった田所先生に、心より感謝します。

昼食は「シンガポール・シーフード・リパブリック銀座」で。11階から銀座の街並みを眺めながらシンガポール料理に舌鼓を打ちました。その後は銀座・東京駅界隈を自由散策し、帰路につきました。

今回の施設見学会も、皆さまのご協力により、無事終えることができました。次回もご期待にそえるよう努めますので、よろしくお願いします。

田所衆議院議員にご案内いただく



迫力の本会議場

久慈支部　根本 恵美

ベテラン建築士の奥深い世界観に触れた日。

カフェ・ギャラリー「オープンセサミ」にて

昨年10月5日㈰、那珂市のカフェ・ギャラリー「オープンセサミ」において開催された、久慈支部会員 上岡正芳氏の『事務所開設30年展』を見学しました。

あいにくの天気でしたが、久慈支部女性部会のメンバー6名が集まり、上岡氏本人から説明をいただき、展示されている作品の背景も含めて、多くの情報を得ることができました。

上岡氏のデザインした建物は自然と調和した作品が多く、設立10周年に書かれた記事においても、その特徴は取り上げられています。近年は、建物だけでなく家具のデザインも手掛けておられ、実際の作品もいくつか展示されていました。

上岡氏に会ったことのある方はおわかりかと思いますが、会話している最中にも、常に新しい発想が湧き出ているようです。それは、デザインのフィールドのみならず、言葉による表現にも及んでいました。会場に展示された童話や絵葉書には、上岡氏のもう一つの世界が表現されていました。

これまでの建築士会の活動においては、他の建築士の方々と、デザインや世界観について深く話したり関わったりしたことがなかったので、大変に良い機会となりました。参加した6名それぞれの視点から異なる意見が交わされ、大変有意義な見学会でした。

その後は、もちろん、美味しいランチをいただきながら、次回活動の打ち合わせ。これも女性部会の楽しみのひとつです。

土浦支部　江ヶ崎 雅代

つくば市北条に残る伝統建築に、デザインの美しさと機能性を学ぶ。

矢中の杜にて

昨年の10月1日㈬に開催された土浦支部女性部会による見学会は、つくば市の北条地区へ。

昭和初期の近代洋風住宅「矢中の杜（やなかのもり)」と、8棟からなる江戸時代後期の建築「宮本家」を見学し、その後、大正時代に郵便局として建てられた建物をリノベーションしたカフェ「ポステン」でランチと、盛りだくさんな企画となりました。

「矢中の杜」は、建材研究家・実業家の矢中龍次郎氏が約15年をかけて建設した邸宅で、約770坪の広大な敷地内に本館（居住棟)、別館（迎賓棟）の建造物が現存し、その周囲には庭園が広がっています。鮮やかな山吹色の外壁には、矢中氏が開発した建材が用いられており、色褪せることなく、当時からの美しい外観を維持しています。この邸宅内には、こうした矢中氏の研究技術だけでなく、通風や換気などの機能性の追求、細部へのデザインのこだわりなどが随所に見られ、見どころ満載でした。

「宮本家」では、商家ゆえの仕掛けや構造が数多く残されており、当時の様子を垣間見ることができます。また、改装して音響設備が整えられた「蔵」は、ベルリンフィルのコンサートにも利用されるなど、新たな魅力を有して再生されています。

当日ご案内いただいた「矢中の杜」を維持管理されているNPOの方々、宮本家の宮本様、本当にありがとうございました。

西山荘現場完成見学会

県央支部　白土 裕子

光圀公の晩年の暮らしに想いを馳せて。

西山御殿（西山荘）にて

11月14日㈮、常陸太田市内にて元禄3（1690）年から数々の時代を見てきた「西山御殿」（西山荘）の見学会に参加しました。

西山御殿は皆さまご承知の通り、水戸藩2代目藩主徳川光圀公が元禄4年5月から亡くなるまでの約10年間を過ごしたお住まいで、ここで多くの方々と関わりを持ち「黄門様」の愛称で慕われていたといいます。西山荘は光圀公没後も水戸藩によって大切に保存されましたが、文化14（1817）年の野火により焼失し、その2年後の文政2（1819）年、第8代齊脩公が隠居部分を再建したのが現在の姿です。

私は長年県内に住みながらも、「西山荘」を訪れるのは今回が初めてでした。豪華な昼食をいただいてから山道を進み始めると、山間に紅く色付いたモミジの葉が出迎えてくれました。同じ道を光圀公も歩いたのかと思うと感慨深い気持ちになりました。

昨年度から東日本大震災で多くの傷を負った御殿の「平成の大修理」が終盤作業中で、徳川ミュージアムの方の解説付きで内部を見学するという貴重な体験をすることができました。解説の中で何度も耳にしたのが「質素」という言葉。屋根は藁葺き、柱は杉丸太、廊下は板貼等。藩主であったにもかかわらず、また、それまで江戸城という当時最高の贅沢を極めた環境にあったにもかかわらず、このような質素な環境へ自らを置くことができたのは、光圀公だったからこそ。

しかし、長押等を見ると、皮付きの材料を使用していますが、継手の部分でも表面の皮がピッタリと同じ幅です。細かな部分を見落とさずに施工する技術は現在でも同じですね。光圀公は、御殿の書斎の丸窓から見える梅の木を「好文木」と称し、勉学に励んだそうです。観月山の四季の移り変わりを肌で感じ、彼らしい優雅な晩年を過ごしたのでしょう。

御殿から見る山間の木々は325年前と変わらず同じ姿を私たちに見せてくれたような気がします。秋のひと時、歴史にふれることのできた旅でした。

土浦支部　永井 昭夫

歴史的街並みに調和するポケットパーク完成！

完成した中城通りポケットパーク

歴史的街並みの景観整備を目的とした「中城通りポケットパーク事業」は、土浦市まちづくりファンドを活用して土浦支部が企画・設計・監修を行い、「茨城大工棟梁の会」の施工により昨年11月初旬から着工、今年1月初旬に無事工事が完了しました。

内容は、土浦市中城通り（旧水戸街道沿い）の「まちかど蔵・野村」（土浦市中央1-12-5）に隣接する土浦市観光協会駐車場（土浦市所有）の道路側の既存のスティールフェンスを撤去して、コの字型に板塀化し、その内部に木製ベンチを設置するというもの。ポケットパーク部分はアスファルトを撤去し、ビシャン仕上の石貼りとしました。工事費82万円のうち41万円を補助金でまかなうことができました（残りは土浦支部による資金）。板塀には松煙を混ぜた柿渋を塗装。作業は20名以上の地元住民の協力を得て行われました。

今回の企画・発案は4年前にさかのぼります。歴史的街並みにおけるスティールフェンスの存在が気になったのがきっかけであり、所有者である土浦市との話し合いを継続的に行い、小さなことでも確実に形にしていきたいという情熱がその実現に繋がったと自負しています。

中城通りでは、江戸時代に「土浦宿」があった宿場町という歴史的文脈を生かしたまちづくりが行われています。

歴史的街並みにスティールフェンスの存在が気になったのが今回の企画の契機

地域住民の方々をまじえて板塀を塗装している様子

将来の一級建築士を応援！「製図課題施設見学会」開催

青年委員会報告

県央支部
早川 敏史

道の駅「奥久慈だいご」にて

昨年の9月6日㈯に、一級建築士製図課題施設見学会を開催しました。平成26年の一級建築士試験の製図課題は「温浴施設のある道の駅」ということで、茨城県内にある道の駅の中で唯一温浴施設を併設している道の駅「奥久慈だいご」を見学しました。

これは県央地区・土浦地区の合同の事業として開催したもので、県内各地から約30名の参加がありました。

当日はまず、施設管理者の古内駅長、二方事務局長に説明をいただきました。施設管理という立場からの貴重なお話に、参加者も真剣に聞き入っていました。今回の試験でも重要なポイントとなるようなお話も聞くことができたのではないでしょうか。

続いて、2グループに分かれて見学を行い、オープン前の浴室、食堂をじっくり見学することができ、写真やメモをとる参加者も多く見られました。さらに、温浴施設の機械室を見学することができたのですが、ここは普段ではなかなか見ることができないところなので、参加者からは多くの質問が出ていました。課題への疑問点も、少なからず解決できたのではないかと思います。

この一級建築士製図課題施設見学会は、例年行っている事業で、私も受験の時に参加させていただき、大変に参考になりました。今回は運営する立場としての参加でしたが、見学者として参加された方たちの中から多くの合格者が出てくれることを願わずにはいられませんでした。将来建築士となる方たちに向けて、われわれ建築士会がアピールできる貴重な機会ですので、今後も続けていきたいと思っております。今回参加していただいた方にも、いつの日かまた運営の立場で参加していただければと思います。

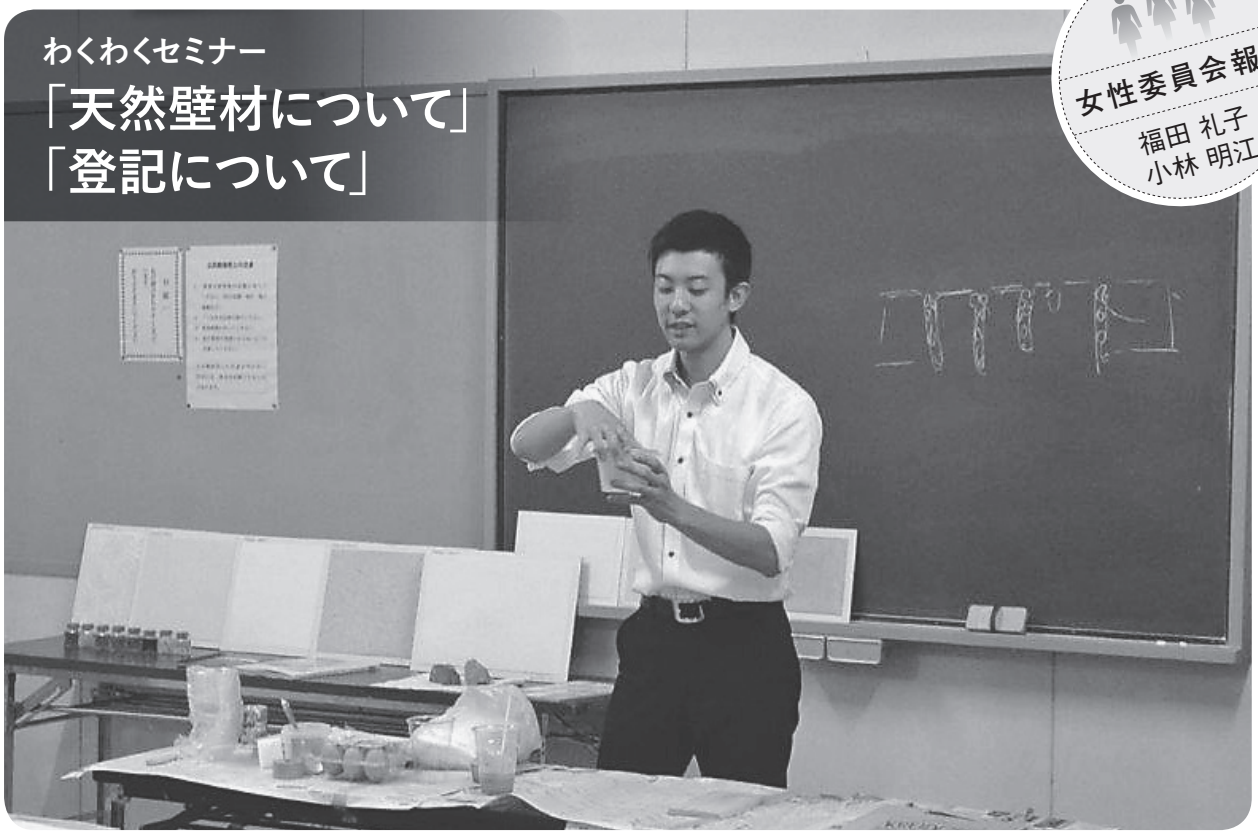
暑い中、熱心に勉強中

女性委員会報告

福田 礼子
小林 明江

わくわくセミナー

「天然壁材について」「登記について」



自然塗料、天然壁材について講師の林宙氏にお話しいただいた

9月「天然壁材について」

平成26年9月のわくわくセミナーは、「天然壁材について」と題し、㈱Planet japanの林 宙さんを講師にお迎えして、自然塗料、天然壁材についてお話しいただきました。㈱Planet japanは、自然塗料の先進国ドイツにおけるトップクラスの純自然塗料メーカー、クライデツァイト社と共同開発した自然塗料を製造販売する会社です。

自然の原料から作られた顔料に、身近なビールや卵の白身を溶剤として塗料を作ったり、ドイツの漆喰壁である天然壁材を実際に手に取ってみることができました。

自然塗料は、天然の成分だけで製造することにより、健康に悪影響を一切与えることがないばかりではなく、廃棄後にも環境を害する危険性もないそうです。原料についてもすべて明記されているので、アレルギー体質の方にも安心です。シックハウス対策としても「天然壁材」の使用が有効であると思います。近年、一般にも環境や健康への関心が高まり、建築に携わる側としても、目を向けていきたいと思いました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。(福田)

10月「登記について」

平成26年10月22日㈬、土浦市乙戸の土浦市立三中地区公民館にて、女性委員会主催のわくわくセミナー「登記について」を開催しました。雨にもかかわらず遠方からも多数の参加をいただき、23名が参加しての勉強会となりました。

第一部は家屋調査士の飯野豊先生による「表示に関する登記」、第二部は司法書士の小川直宏先生による「権利に関する登記」です。

登記には多くの種類があり、短時間で理解するのはちょっと困難ですが、私たちの大切な財産が次世代に承継されていくことの重要性をより感じとれた勉強会でした。難しい内容ながら、先生方のユーモア溢れる熱心な講義により、参加者は皆興味深く聞き入り、講義後の質問も活発に行われました。また、先生方が作成されたセミナー用資料がたいへんにわかり易く、私たちにとって貴重な資料となりました。建築士、家屋調査士、司法書士としてそれぞれの分野で活躍する先生方が協力し合う、すばらしい勉強会となりました。

今後も、「わくわくセミナー」にひとりでも多くの参加をいただき、親睦も兼ねた楽しい勉強会にしていければと思っています。(小林)

女性委員会報告

飛田 直身
金子 雅代

ラブアークセミナー
見学会＆体験「結城紬ミュージアムつむぎの館」
セミナー「これからの高齢者の住まい」

「これからの高齢者の住まい」セミナーの様子

「結城紬ミュージアムつむぎの館」

平成26年9月27日、結城紬ミュージアムつむぎの館の見学会＆体験に参加しました。筑西支部の郡司氏・古河さしま支部の加藤氏がリニューアルを手がけ、OPENしたばかりの古民家のお土産店“澤屋”の見学も楽しみにしていました。

茨城県を代表する織物工芸である結城紬は、昭和31(1956) 年に国の重要無形文化財に指定されています。紬織りの作業工程は大きく分けて9工程。①繭煮と真綿かけ ②糸つむぎ ③意匠図案（設計図）④染色 ⑤撚糸（よりいと）加工 ⑥絣（かすり）しばり ⑦機織り ⑧仕上げ ⑨検査。お話を聞いてみるとなんだか建築設計の仕事に似ている部分が多く、さらに興味が湧いてしまったのは私だけではないはず。織り体験では、皆さん黙々と作業を進め、指導者の方に「さすが建築士さん、とても上手です」とお褒めの言葉をいただき、コースターを完成させました。

いくつもの工程を積み上げてできる結城紬には作り手の心が移るそうです。一人ひとりの協力があって美しい紬が完成することに感銘を受けました。伝統を受け継ぐことはどの分野でも同じ。心をこめて作られたものを大切に受け継いでいきたいと感じました。（飛田）

「これからの高齢者の住まい」

平成26年11月6日㈭、茨城県総合福祉会館にて『これからの高齢者の住まい』についてのセミナーが開催されました。第一部は高齢者の身体の特性を実体験できるように、特殊ゴーグル、耳あて、おもり付きベスト、肘と膝にはサポーター、足首と手首にはおもりと手袋を装着し、杖を持って、歩いたり車椅子を押したりしました。初めての体験で、高齢者になるとこんなにも生活しづらいものなのだと実感しました。

第二部は柳下文江氏にこれからの高齢者の住まいの具体的事例やポイントについてお話していただきました。十人十色と申しますが、まさしく高齢者・障害者もその通り、一人ひとり身体能力が違い、その人に合った高さや寸法があるので、『聞き取りがとても大切』と何度も力説していらっしゃいました。

『手すり1本侮る無かれ』この言葉も深く印象に残りました。手すり1本で住まいがより快適になるとの事でした。私たち設計者は高齢者、障害者一人ひとりの話をよく聞き、少しでも毎日の生活が快適に送れるように手助けしていかなければならないのではないでしょうか。今後の参考になるセミナーとなりました。（金子）